

九州教育学会 第66回大会プログラム

2014年12月6日(土)～7日(日)

会場：長崎大学文教キャンパス(長崎大学教育学部およびグローバル教育・学生支援棟)

第1日目 12月6日(土)

9:00～	受付開始	(長崎大学教育学部玄関)	
9:30～12:00	自由研究発表	(長崎大学教育学部本館)	
	第1分科会	教育史(1)	21番講義室
	第2分科会	教育史(2)	22番講義室
	第3分科会	教育社会学(1)	23番講義室
	第4分科会	教育方法(1)	31番講義室
	第5分科会	比較教育(1)	32番講義室
	第6分科会	社会教育(1)・生涯学習(1)	33番講義室
12:00～13:00	昼食・休憩		
13:00～13:50	総会	(グローバル教育・学生支援棟4階「文教スカイホール」)	
14:00～17:00	総合部会	(グローバル教育・学生支援棟4階「文教スカイホール」)	
17:30～19:30	懇親会	(長崎大学生協2階食堂)	

第2日目 12月7日(日)

9:00～	受付開始	(長崎大学教育学部玄関)	
9:30～12:00	自由研究発表	(長崎大学教育学部本館)	
	第7分科会	教育経営・行政(法制)	21番講義室
	第8分科会	教育史(3)・特別支援教育・保育思想史	22番講義室
	第9分科会	教育哲学	23番講義室
	第10分科会	教育社会学(2)・高等教育	25番講義室
	第11分科会	教育方法(2)・比較教育(2)	32番講義室
	第12分科会	社会教育(2)・生涯学習(2)	33番講義室
12:00～13:00	昼食・休憩		
13:00～15:00	ラウンドテーブル	(長崎大学教育学部本館)	
	I	教育社会学の科学性と実践性(2)	21番講義室
	II	地域と子どもに根ざす教育実践・研究を考えるII	22番講義室
	III	技術と科学の教育思想史	23番講義室
	IV	九州地区における学校規模適正化をめぐる 問題状況と課題をさぐる(その2)	25番講義室

九州教育学会第66回大会準備委員会事務局

〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学教育学部 山岸賢一郎研究室内

Email: kyukyoku66@gmail.com Tel: 095-819-2392

大会参加者の皆様へ

1. 受付

受付は、第1日（12月6日）、第2日（12月7日）ともに、午前9時から行います。場所は、教育学部本館1階玄関です。

2. 大会参加費、懇親会費

(1) 大会参加費は次の通りです。受付の際にお支払下さい。

一般会員・一般臨時会員 3,000 円

学生会員・学生臨時会員 1,500 円

(2) 懇親会費

3,000 円

※ 懇親会に参加される方は、第1日目の午前9時30分までに、会費を添えて受付にてお申込みください。

3. 発表要領

(1) 自由研究発表時間

個人研究発表 25分（発表20分 質疑5分）

共同研究発表 50分（発表40分 質疑10分）

※ 発表者が1人の共同研究は、個人発表と同じ発表時間となりますのでご注意ください。

(2) 発表資料

発表資料は50部用意し、当日、発表部会スタッフにお渡しください。

4. 昼食

- ・ 大会1日目は、大学生協食堂・売店がご利用できます（営業時間 10:30-13:30）。
- ・ 大会2日目は、大学生協食堂・売店はご利用できません。正門・東門近くにコンビニ等がございますので、ご利用ください。

5. 会場

(1) 自由研究発表・ラウンドテーブル

教育学部本館2階・3階の教室で行います。

(2) 総会・総各部会

グローバル教育・学生支援棟4階「文教スカイホール」で行います。

(3) 懇親会

生協食堂2階で行います。奮ってご参加ください。

(4) 会員控室

教育学部本館2階「24番講義室」にご用意しています。ご利用ください。

6. 交通案内

※ 大学へは、公共交通機関でお越しください。

※ 長崎大学文教キャンパスの住所は 〒852-8521 長崎市文教町 1-14 です。

・ JR 長崎駅から

- 路面電車: 「長崎駅前」 → (赤迫行き) → 「長崎大学前」 下車
- 長崎バス: 「長崎駅前」 → (1 番系統: 「溝川」, 「上床」, 「上横尾」 行き, 等) → 「長崎大学前」 下車

・ JR 浦上駅から

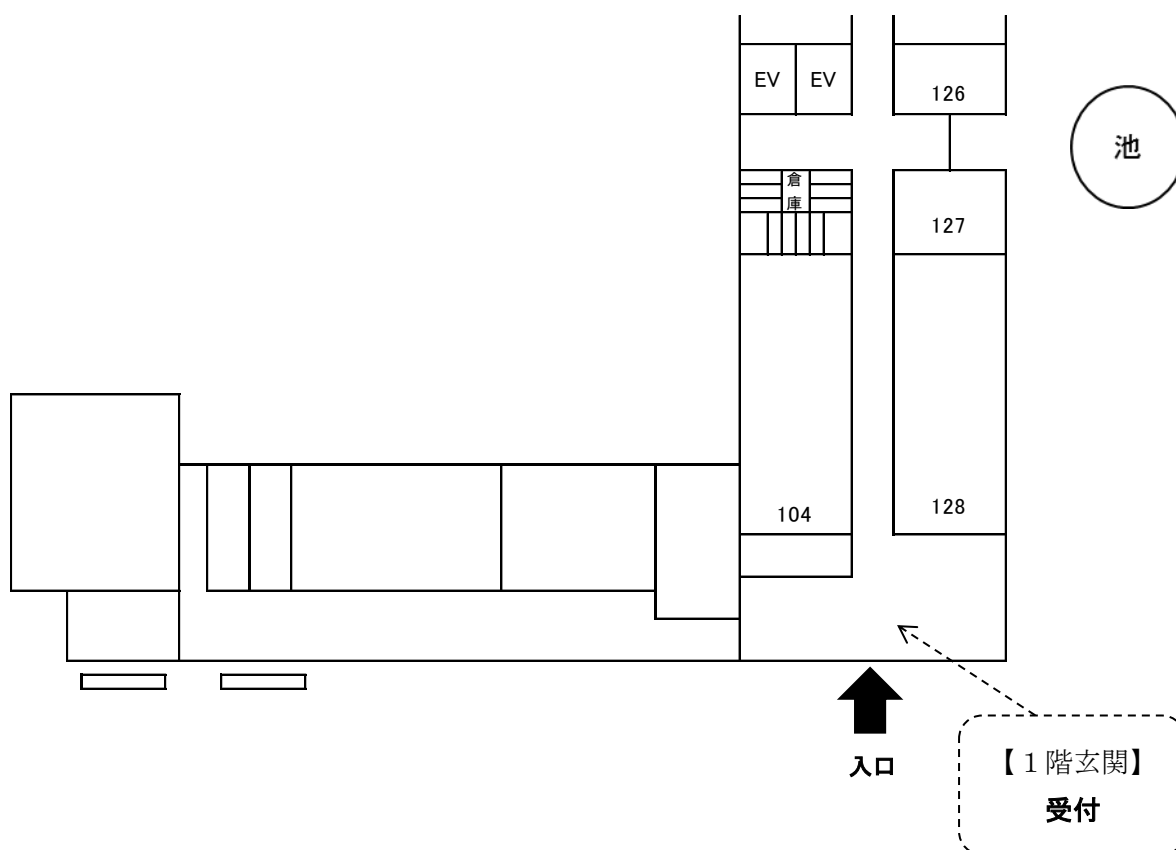
- 路面電車: 「浦上駅前」 → (赤迫行き) → 「長崎大学前」 下車
- 長崎バス: 「浦上駅前」 → (1 番系統: 「溝川」, 「上床」, 「上横尾」 行き, 等) → 「長崎大学前」 下車

・ 長崎空港から

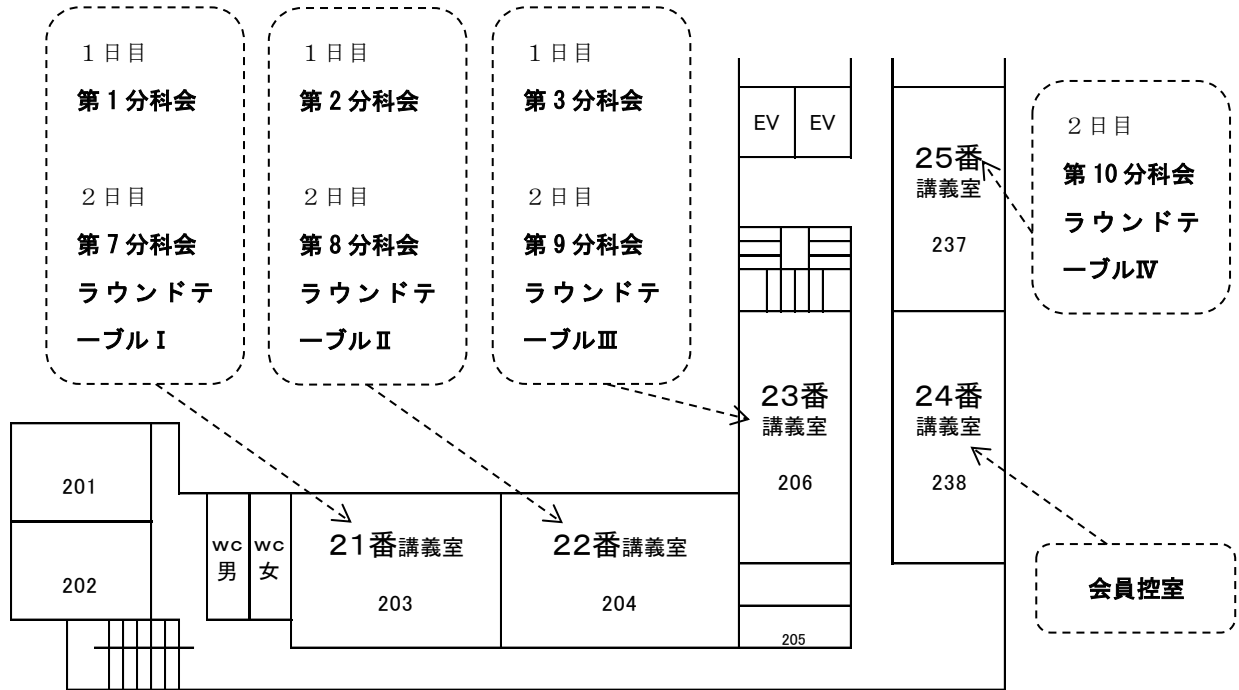
- 県営バス: 「長崎空港 4 番のりば」 → (昭和町・浦上経由長崎方面行き) → 「長大東門前」 下車

教育学部本館会場案内図 (受付および自由研究発表・ラウンドテーブル会場)

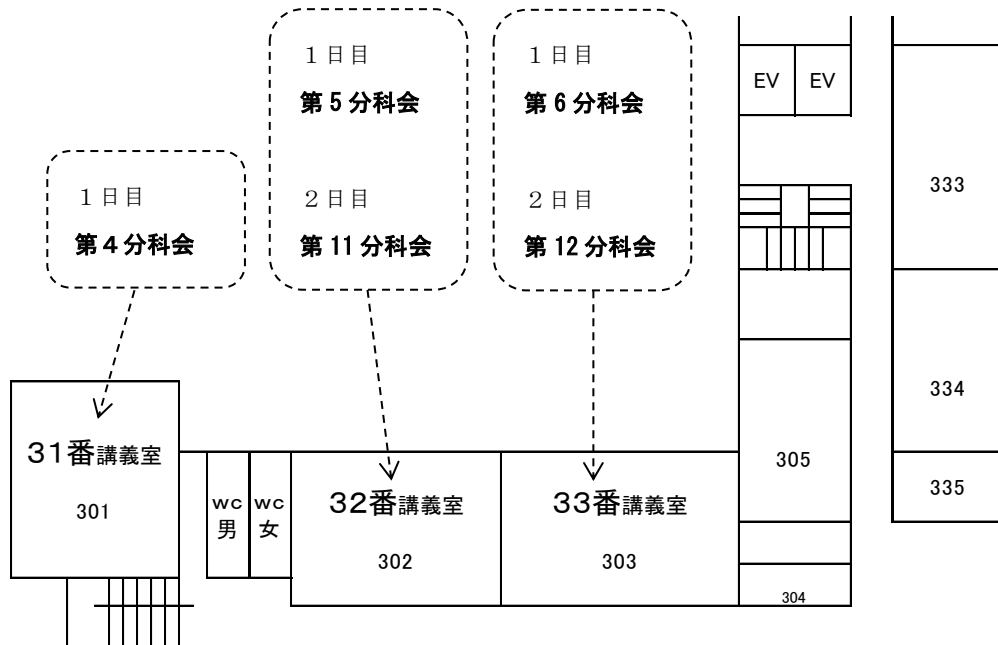
1 階



2 階



3 階



総会・総合部会は、グローバル教育・学生支援棟4階「文教スカイホール」で、
 懇親会は、生協食堂2階で行います。
 裏表紙のキャンパスマップをご覧ください。

自由研究発表：1日目（12月6日 土曜日）

【第1分科会】21番講義室 教育史(1)

司会：佐藤 淳介（大分県立芸術文化短期大学）

①9:30－9:55

明治末期から大正期における西山哲治の「子供の権利」思想の研究

豊福 明子（九州大学大学院）

②9:55－10:20

伊藤博文の官僚制導入に関する一考察

小島 亜矢子（福岡大学大学院）

③10:20－10:45

国民国家形成期の日本における、唱歌教育政策に関する一考察

佐藤 慶治（九州大学大学院）

④10:45－11:10

戦後改革期の矯風会による純潔運動と母役割の強調—杉並事件(1948)をめぐる対応を中心に—

柳園 順子（近大姫路大学）

〈11:10－12:00 総括討論〉

【第2分科会】22番講義室 教育史(2)

司会：乙須 翼（長崎国際大学）

①9:30－9:55

1941年カリフォルニア州における新日本語教科書の編纂過程

竹本 英代（福岡教育大学）

②9:55－10:20

日本人と間島—斎藤季治郎を中心に—

金 斑実（九州大学）

③10:20－10:45

清末における嬰兒救済事業——余治の『得一録』（1869年）を手かかりに

葛 秋月（九州大学大学院）

④10:45－11:10

明末清初期の江南地区の「寡母扶孤」から見る「母教—顧若璞の家族を中心に—

張 琦（九州大学大学院）

⑤11:10－11:35

トーマス・ワイズ（T・Wyse）のアイランドにおける国民教育制度論

～イギリス政府及び議会の考えとの比較を通して～

和田 英武（熊本市医師会看護専門学校非常勤）

〈11:35－12:00 総括討論〉

自由研究発表：1日目（12月6日 土曜日）

【第3分科会】23番講義室 教育社会学(1)

司会：柳田 泰典（長崎大学）

①9:30－9:55

児童扶養手当法の改定と「ひとり親世帯」の家族像

東野 充成（九州工業大学）

②9:55－10:20

公立学校における性的マイノリティへの当事者支援のあり方

眞野 豊（九州大学大学院）

③10:20－10:45

子どもの遊びに対する保護者の意識に関する研究

：福岡市「放課後等の遊び場づくり事業」アンケート調査を通して

白坂 正太（九州大学大学院）

④10:45－11:35

小学校におけるニューカマー児童の受け入れと指導

－学級担任教師の認識と態度を中心に－

○孫 恩恵（熊本大学教員研修生／ソウル大学大学院）

○藤井 美保（熊本大学）

〈11:35－12:00 総括討論〉

【第4分科会】31番講義室 教育方法(1)

司会：田上 哲（九州大学）

①9:30－9:55

小中連携教育における異年齢集団活動に関する考察

住田 味那（大分大学大学院）

②9:55－10:20

水俣芦北地域における水俣病教育の教育方法的検討

－「水俣芦北公害サークル」の活動を中心に－

内山 仁（福岡国際大学）

③10:20－10:45

学校教育における体験活動に関する一考察－「栽培」を中心にして－

山本 俊光（三井中央高等学校）

〈10:45－11:35 総括討論〉

自由研究発表：1日目（12月6日 土曜日）

【第5分科会】32番講義室 比較教育(1)

司会：森下 稔（東京海洋大学）

①9:30－9:55

大学入学者選抜制度の多様化・国際化－国際バカロレアの認証に着目して－

花井 渉（九州大学大学院／日本学術振興会特別研究員）

②9:55－10:20

イギリスの学校における第三者評価と地域性に関する一考察

坂本 真由美（中村学園大学）

③10:20－10:45

韓国の「民主市民教育」について

朴 永奎（熊本学園大学非常勤）

④10:45－11:10

韓国の徴兵制の社会的意味について－社会化・通過儀礼をこえて考える－

佐々木 正徳（長崎外国語大学）

〈11:10－12:00 総括討論〉

【第6分科会】33番講義室 社会教育(1)・生涯学習(1)

司会：岡 幸江（九州大学）

①9:30－9:55

子どもの貧困対策としての学習支援事業に関する一考察

嘉納 英明（名桜大学）

②9:55－10:45

グローバル時代における〈ローカルな知〉－山本作兵衛の文化を〈読む〉(八)－

○後藤 裕子（西日本短期大学）

○森山 沾一（福岡県立大学）

③10:45－11:10

福島県双葉郡川内村で実施した「復興子ども教室」とその評価（第1報）

～自由連想調査とクラスタ分析を中心に～

○全 炳徳（長崎大学）

高村 昇（長崎大学）

折田 真紀子（長崎大学）

〈11:10－12:00 総括討論〉

「教育学は子どもの貧困にどう向き合うか」

司会 上 藺 恒太郎（長崎総合科学大学）

佐久間 正夫（琉球大学）

提案者

川口 俊明（福岡教育大）

盛満 弥生（宮崎大学）

松本 伊智朗（北海道大学）

指定討論者

小西 祐馬（長崎大学）

石川 衣紀（長崎大学）

「子どもの貧困」は、子どもの育ちと学びの土台を壊し、成長・発達の機会を奪うとともに、自由や平等、社会的公正といった社会全体の価値基盤を掘り崩す。問題が年々深刻化するにつれて社会問題としての認知は高まり、2013年6月には「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が成立した。この法の目的（第1条）に「教育の機会均等」が掲げられ、「子どもの貧困対策」の最初に「教育の支援」（「就学の援助、学資の援助、学習の支援その他の貧困の状況にある子どもの教育に関する支援のために必要な施策」）が位置付けられた。教育は、子どもの貧困対策の重要な柱となった。

しかし、多くの課題が残されている。子どもの貧困問題の解決に寄与する「教育の支援」を、われわれは具体的にどのように構想するのか。「教育の支援」を、どこで、誰が、どのように行うのか。そもそも、子どもの貧困対策として教育はどこまで有効なのか。これらの課題に応える理論的基盤の構築が求められている。

九州教育学会第66回長崎大会の総合部会は、「教育学は子どもの貧困にどう向き合うか」をテーマに掲げ、子どもの貧困を解決・緩和するために教育学が向き合うべき課題と果たすべき役割について議論を展開する。本学会では、前回の第65回佐賀大会総合部会「子どもの貧困とどう向き合っているのか」において、問題を概観し、実践の場からの報告を基に議論した。今大会は、その問題意識を継承し、子どもの貧困問題の解決のために教育学が向き合うべき課題を検討する。

本総合部会に登壇する3名は、貧困・不平等と教育の接点について、量的データの統計分析、教室内の参与観察、インタビュー調査など、それぞれ異なる調査方法により、先駆的な研究を積み重ねてきた。3名の語りは、貧困にある子どもの教育的不利を鋭く照らし出すだろう。登壇者の報告を受けて、指定討論者は、幼児教育・保育の視点から、また特別支援教育の視点から議論を提起する。

総合部会「教育学は子どもの貧困にどう向き合うか」は、市民と教育関係者がともに論議する場である。多くの皆さんの参加を期待する。

自由研究発表：2日目（12月7日 日曜日）

【第7分科会】21番講義室 教育経営・行政（法制）

司会：押田 貴久（宮崎大学）

①9:30－9:55

学校組織間における知識移転

—高校教員のライフストーリーにみるカリキュラム・マネジメント—

畑中 大路（山口東京理科大学）

②9:55－10:20

「子どもの権利条約」の拓く地平—「国家と教育」という問題構制によせて

山岸 利次（宮城大学）

③10:20－10:45

小中連携教育の成果と課題に関する一考察

原北 祥悟（福岡大学大学院）

④10:45－11:35

「若松高校事件」に関する一考察—教育における「不当な支配」に関連して—

○高橋 潤子（福岡大学大学院）

○勝山 吉章（福岡大学）

〈11:35－12:00 総括討論〉

【第8分科会】22番講義室 教育史(3)・特別支援教育・保育思想史

司会：平田 勝政（長崎大学）

①9:30－9:55

同和教育における障害児教育のとりあげられ方—全国同和教育研究大会報告を通して—

久米 祐子（九州大学大学院）

②9:55－10:20

真鍋博愛についての研究～福岡県の水平運動と融和運動についての一考察～

竹永 茂美（九州大学大学院）

③10:20－10:45

全国の高等特別支援学校におけるキャリア教育の実践的動向

—知的障害教育における福祉科を中心に—

○下山 美麗（長崎大学大学院）

平田 勝政（長崎大学）

④10:45－11:10

我が国における幼稚園／幼児教育の導入と展開

甲斐 仁子（東洋英和女学院大学）

〈11:10－12:00 総括討論〉

自由研究発表：2日目（12月7日 日曜日）

【第9分科会】23番講義室 教育哲学

司会：上菌 恒太郎（長崎総合科学大学）

①9:30－9:55

オルコット教育理論における超越論的観念論の受容—経験世界拡大の試み—

山本 孝司（九州看護福祉大学）

②9:55－10:20

空虚と主体——前期フーコーの思想を導きとして——

船原 将太（九州大学大学院）

③10:20－10:45

舞台上の演技者カント—「ふり（Schein）」概念の解釈—

塚野 慧星（九州大学教育学部学部生）

④10:45－11:10

食事、その社会的行為としての転換について

伊澤 貞治（皐月幼稚園）

〈11:10－12:00 総括討論〉

【第10分科会】25番講義室 教育社会学(2)・高等教育

司会：山田 裕司（宮崎大学）

①9:30－9:55

中国における重点大学の「通識教育」カリキュラム改革に関する一考察

史 媛媛（九州大学大学院）

②9:55－10:20

高等教育の有用性をめぐる卒業生調査の研究レビュー

坂巻 文彩（九州大学大学院）

③10:20－10:45

大学生の就業体験としてのワーキングホリデー

酒井 佳世（久留米大学）

④10:45－11:10

教職志望学生の資質能力形成過程に関する一考察

鈴木 篤（大分大学）

⑤11:10－11:35

第三段階教育における教員研究の現状と今後の課題

岡 靖子（九州大学大学院）

〈11:35－12:00 総括討論〉

自由研究発表：2日目（12月7日 日曜日）

【第11分科会】32番講義室 教育方法(2)・比較教育(2)

司会：楠山 研（長崎大学）

①9:30－9:55

学習方略の変容に関する一考察

－高校生への学習方略指導とインタビューを手がかりとして－

下地 貴樹（九州大学大学院）

②9:55－10:20

平成26年度全国学力・学習状況調査沖縄県小学校結果の検討

森本 雅人（宜野湾市教育委員会）

③10:20－10:45

タイにおけるグローバル人材養成教育政策

－World-Class Standard School 事業の展開と実施状況－

森下 稔（東京海洋大学）

④10:45－11:10

中国における高等教育カリキュラムの改革に関する考察

－日本語専攻教育を中心に－

神崎 明坤（西南女学院大学人文学部）

〈11:10－12:00 総括討論〉

【第12分科会】33番講義室 社会教育(2)・生涯学習(2)

司会：長尾 秀吉（別府大学）

①9:30－9:55

現職小学校・中学校教師にとっての介護等体験の意義～インタビュー調査を通して～

竹沢 昌子（名桜大学）

②9:55－10:45

子ども・若者の自己形成空間と居場所づくりに関する研究

－ナラティブ・アプローチの視点から－

○金子 満（鹿児島大学）

○牟田 京子（鹿児島大学大学院）

③10:45－11:10

園歌・園章にみる幼児教育文化(4)－長崎県下の幼児教育施設を事例として－

大庭 茂美（九州女子短期大学）

〈11:10－12:00 総括討論〉

ラウンドテーブル：2日目（12月7日 日曜日）

【ラウンドテーブルⅠ】21番講義室 13:00-15:00

教育社会学の科学性と実践性（2）—子ども研究の最前線—

コーディネーター 東野 充成 (九州工業大学)
発話者 山口 季音 (関西大学 大学院生)
白坂 正太 (九州大学 大学院生)

今、教育社会学に対しても「実践力」の声が向けられている。”教育社会学は実践力に資することができるか”、”そもそも教育社会学は実践の基礎学でありうるのか”。この問いかけへの返答は、次の二つにある。(1) 教育社会学の生命線である科学性をどのように琢磨していくか、(2) 教育社会学はどのような実践に対して、どのように貢献しうるか。このラウンドテーブルでは教育社会学と科学性と実践性を考察し、今後の研究の深化を図ろうとするものである。

【ラウンドテーブルⅡ】22番講義室 13:00-15:00

**地域と子どもに根ざす教育実践・研究を考えるⅡ
(第5回九州教育実践事例研究会)**

○企画者 田上 哲 (九州大学)
○話題提供者 猪 晃一郎 (波佐見町立波佐見中学校)
藤井 佑介 (福井大学)

九州教育学会は、九州沖縄8県の回り持ちで開催されています。本ラウンドテーブルは、九州教育学会の開催県およびその近隣地域で、個人やサークルで自発的・自主的に、また学校や機関の中で主体的に教育実践・実践研究に取り組んでいる教師と、教育実践研究に取り組んでいる研究者が集い、地域に根ざす教育実践・研究、子どもに根ざす教育実践・研究について検討しようとするものです。

ラウンドテーブル：2日目（12月7日 日曜日）

【ラウンドテーブルⅢ】23番講義室 13:00-15:00

技術と科学の教育思想史：19世紀-20世紀転換期を中心に

企画・発表：藤田 雄飛（九州大学）

発表：久保田 健一郎（大阪国際大学短期大学部）

渋谷 亮（成安造形大学）

本企画は近代における科学や技術の発展という観点から、教育の変化や子どものあり方を思想的に探求するものである。具体的には19世紀から20世紀の転換期に焦点を当て、モノを作り出す技術の発展、さらにまた計測したり比較したりする科学的な方法の展開が、教育や子どもとどのように関わってきたのかを検討する。それは子どもとモノとの関係、そしてまた子どもと計測や比較という営為との関わりを再考する試みとなるだろう。

【ラウンドテーブルⅣ】25番講義室 13:00-15:00

九州地区における学校規模適正化をめぐる問題状況と課題をさぐる（その2）

～長崎県の現状報告と研究方法論の検討

企画・司会 元兼 正浩（九州大学）

報告①「長崎県義務教育諸学校の統廃合とマクロ分析」 雪丸 武彦（長崎県立大学）

報告②「長崎県立高等学校の統廃合とミクロ分析」 畑中 大路（山口東京理科大学）

指定討論 行政経験者の立場から 蛭川 誠嗣

指定討論 研究者の立場から 波多江 俊介（熊本学園大学）

少子高齢化に伴うダウンサイジング社会における学校教育のあり方は喫緊の行政課題の一つである。自治体の財政難や平成の大合併を背景に学校のリスストラクチャリングに関心が寄せられ、他方、単学級や複式学級の増加は子ども達の学習環境という面からもそれに抗しきれない状況を生み出している。九州地区もその例外ではない。限界集落化する地域を多く抱えると同時に、都市部のドーナツ化や一等地の有効利用を目的とした学校統廃合の問題が、同じ「適正化」の名の下で、多様な手法で対応が展開されている。これら離島・僻地や農村地域の統廃合と都市部の統廃合問題のちがいを、そして通底する共通項は何かをさぐりながら、社会資本としての学校のゆくえについて検討する。昨年は宮崎県、佐賀県、そして北九州市の状況について検討した。本年度は人口減少が九州でもっとも急速にすすむ長崎県（開催地）に焦点を絞り、義務教育段階から高校の再編問題までその全体像を把握する。行政課題についてはゲストの解説を頂戴し、フロアからの情報や意見も交え、同県の現状と課題を検討し、今後のあり方について議論する。また、指定討論者には特に学校適正規模研究の方法論についてのコメントをいただき、教育行政学研究の方法論についても議論していきたい。

長崎大学文教キャンパス・キャンパスマップ

